

## 上海派遣短期特別研修事業等に係る県の考え方（鹿児島県のHPより）

### Q1 上海はどんなところですか？

#### 回答

上海市は、中国最大の経済都市として、2001年の中国のWTO加盟以降、毎年、8%を超える経済成長により2011年の貿易輸出入総額は4,374億ドルに達しています。また、直接投資額も約200億ドルに達し、年間コンテナ取扱個数も世界1位となっています。

IBMやフォルクスワーゲンなどグローバル企業をはじめ、日系企業も約8千社が進出する環黄海経済圏におけるもっとも成長著しい近代都市です。

加えて、上海市街地から1時間以内の交通圏内に入る都市人口の合計は約6千万人に達しており、今後さらに市場の拡大が期待されています。

### Q2 どうして上海線が重要なのですか？

#### 回答

鹿児島県は、アジアの主要都市であるソウル、上海、台北の三大都市と直接結ばれ、環黄海地域をつなぐ高速交通ネットワークの一翼を担っています。

中でも、鹿児島ー上海線の存在は、成長する中国経済の波及効果の本県にもたらし、本県の発展可能性を大いに高めることとなるため、その維持は本県の成長発展に不可欠です。

また、本年5月に九州地域戦略会議で決定された「次期九州観光戦略」においては、中国からの入国者数を2023年には約304万人とする目標を掲げており、この1割に当たる約30万人程度の中国人観光客を本県へ誘致することを目指しています。10年後にこの中国人観光客を鹿児島に招き入れるためにも、今、上海線が廃止されることは避けなければなりません。

### Q3 上海線の利用状況はどうなっているのですか？

#### 回答

平成14年の就航以来、搭乗率は、おおむね50%以上を維持しており、一時は週4便に増便されるなど、約10年間に渡り安定的に運航され、約17万人の方に利用されてきました。

しかしながら、平成24年9月以降、尖閣諸島の問題や大気汚染の影響等を受けて利用状況が低迷し、とりわけ平成25年4月以降は、鳥インフルエンザの発生も加わり、8月までの44便のうち13便の欠航が生じ、5月は約半分の便がキャンセルされても搭乗率が32.2%にとどまるなど、危機的状況となりました。

なお、上海線については日本人の利用者がこれまで約8割を占めていましたが、これまでの観光振興の取組や中国人への誘客対策の成果により、中国人観光客が徐々に増加しており、平成24年は尖閣諸島の問題があつたにもかかわらず、外国人利用者が初めて5千人を超え、約3割を占めるようになりました。

### Q4 なぜ、県職員などの研修を行うのですか？

#### 回答

職員の資質向上を図る観点から、従来から、国内外を問わず様々な地域に職員を派遣することは、重要であると考えているところです。

今回、成長著しい上海の産業、都市基盤、教育等の状況を直接体験することにより、時代の変化に柔軟に対応し、国際感覚や幅広い視野を持った職員の育成を図ることとしており、その結果として、本県と環黄海経済圏の主要都市である上海を直接結ぶ極めて重要な国際定期路線である鹿児島・上海線の搭乗率を向上させることとなります。

今回の事業は、県職員の研修のみならず、約 100 名の県民の方々にも上海を訪問していただくこととなっております。

#### Q5 どのような研修を行うのですか？研修をどのように役立てるのですか？

##### 回答

知事部局においては、上海へ進出している企業の活動状況や観光資源等の調査、県産品の流通状況や現地の消費者の嗜好・ニーズの調査、農産物の生産・加工現場の実態や水産物の流通状況、本県から輸出された木材の流通過程等の調査、港湾・高速道路・都市公園などの整備状況の調査などを行うこととしています。

このような研修を実施することにより、本県企業の海外進出や安心・安全で高品質な本県農林水産物等の輸出促進に向けた施策の企画・立案、本県における交通ネットワークの構築や街づくり、観光客の誘致等に向けた施策を検討する際に役立てることとしています。

教育委員会においては、日頃、教育現場で、児童生徒の教育指導に当たっている教職員が、上海市の人材育成や教育現場の実情を、自分の目で見て体感することにより、国際感覚の醸成や幅広い視野を持つことができ、教職員の資質向上につながるものと考えています。

また、教職員が、上海の成長する姿を直接目で見て、肌で感じたものを、児童生徒に自らの言葉で語りかけることは、子ども達の国際感覚の醸成に大きな効果があり、その効果を広く普及させていきたいと考えています。

#### Q6 一般県民は参加できないのですか？

##### 回答

一般県民の方々については、8月下旬から9月下旬にかけて100人程度派遣することとしています。

派遣コースとしては、教育交流コース（20人程度）、農業交流コース（20人程度）、経済交流コース（60人程度）を予定しています。

派遣対象者の選定については、関係団体からの推薦を基本としていますが、経済交流コースのうち20人程度は公募を行っています。（公募期間、平成25年8月23日（金曜日）まで）なお、若い世代の方々に上海等の現状を視察する機会をどう提供するかは今後の課題です。

公募に関する詳細は「[上海線利用促進特別対策事業参加者募集](#)」をご覧ください。

#### Q7 研修事業を実施すると路線は維持されるのですか？一過性の対応策ではないのですか？

##### 回答

今回の研修事業は、5月の搭乗率が32.2%となるなど上海線が極めて危機的状況であることを踏まえ、緊急的な対応策として実施するものであり、7月から9月までに300人を派遣することとしています。

また、経済5団体による利用目標1,000人や県観光誘致促進協議会の利用目標500人などの民間における取組が具体化しつつあり、これに団体旅行・ビジネス出張に対する助成拡充などの効果も加わると、一般的に採算ラインといわれる搭乗率60%に近づくと考えています。

同路線は平成14年の就航以来、安定的な就航の目安である搭乗率50%をおおむね維持していることから、研修事業により一定の利用者数を増やすことで危機的な状況を脱することができれば、今後は安定的な運航に必要な利用者を確保できると見込んでいます。

#### **Q8 上海線を維持するためにこれまでどのような取り組みをしてきたのですか？**

##### **回答**

上海線の利用促進については昨年1月の県観光連盟新年互礼会をはじめ、様々な機会をとらえて、同路線の利用状況が低調であることを踏まえ、民間企業の方々に積極的な利用を要請してきました。

また、上海線の利用を促進するため、上海では旅行情報誌などへの観光情報の掲載や海外誘致セールスなど、県内では旅行会社に対する広告支援や団体旅行・ビジネス出張に対する助成など幅広く取り組んできました。

なお、団体旅行については、研修・視察や国際交流のため海外渡航する6人以上の団体・グループを対象に、ビジネス客については新たな海外ビジネス展開を目的に展示会や商談会等に参加する方を対象に、渡航費用の一部を助成していますが、上海線を利用する場合には、いずれの場合も6月1日渡航分から、その助成額を2倍にしたところです。

#### **Q9 県職員を税金丸抱えで海外研修させるのはおかしいと思います。どうしてこのような事業を行うのですか？**

##### **回答**

今回の研修事業については、税金丸抱えという御指摘があります。

この点については、6月14日の県議会本会議でも答弁していますとおり、鹿児島県では、国の異例の要請に対応し、7月1日から来年3月31日までの間、総額約50億円の人件費を削減することとした中であっても、より一層の職員の意欲や資質の向上を図ることは重要であると考えております。

国の要請に基づく人件費削減は、約2万5千人の職員を対象とし、職員1人当たり約19万円削減することとなります。他方で研修に要する経費は1人当たり約12万円でありますので、税金丸抱えという御指摘は必ずしも当たらないと考えています。